

電話めぐり

目安の
所要時間

60分

おすすめ
展示棟番号

市街地群

(3) (18) (19) (22)

視点

開拓の村の電話に注目したコースです。

開拓の村の建物に見られる電話は2種類あります。

電話のかけ方や特徴を知って、今使われている電話との違いを
考えてみましょう。

※展示資料には触れないようお願いいたします。



デルビル磁石式壁掛電話機
旧近藤染舗

ベル
発電用ハンドル
送話口
受話器

電話機の対比

市内通話用	用途	長距離通話用
不明瞭	通話	明瞭、騒音なし
増やすと雑音多	電流	増やすと通話良好



ソリッドバック磁石式壁掛電話機
旧来正旅館

通話までの仕組み

ハンドルを回して発電、発生した電流は電線を通り信号となって、所管の電話交換局に送られる。



発信元から送られてきた信号に気付いた電話交換手は、発信元と繋ぎ、通電。

発信元は繋いでほしい相手先の番号を電話交換手に伝える。

(所管違いの場合は相手先所管の電話局につなぐ)

発信元と相手先を繋ぎ、交換局から相手先の電話へ電流を送ることでベルを鳴らし、着信を伝える。

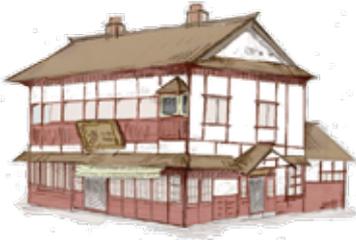


発信元とその相手先が交換局を通じて繋がる。



③旧手宮駅長官舎

北海道で最初の電話は、札幌 - 幌内間に取り付けられた鉄道専用電話でした。



⑱旧来正旅館

明治後期になると市外電話回線の延伸により小樽 - 旭川間の長距離通話が可能となりました。しかし札幌を経由したため、通話がはっきりせず、これを解消するために使用されたのがソリッドバック電話機でした。

⑲旧三河本そば屋

電話があるそば屋へ行き、1枚2銭の盛りそばを注文したついでに電話を借りる。すると加入電話のため市内通話料の15銭がかからず、10銭以下で済んだ、という高価な通話料を安くする技もあったようです。



⑳旧近藤染舗

上川地域への電話線架設は樺戸集治監の囚人たちが多く関わりました。作業は冬に行われ、大雪によって目印となる杭が埋まるなど、大変な苦勞がありました。



青山家と電話の話

青山家 3 代目の青山民治が、札幌に寄宿していた子供たちにあてた手紙があります。その内容は、急用でない用事に電話を使用したことへの説教でした。

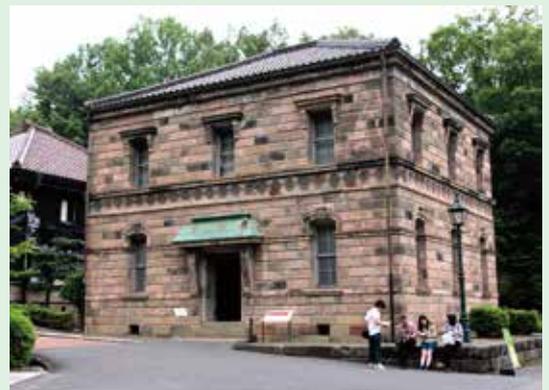
「…そのような用事は1銭5厘の端書(ハガキ)で十分な用事、それに多額のお金を支払い、電話を使用するなど、何とも不経済甚だしい。(中略)電報とか電話とかいうものは手紙や飛脚で間に合わない急用ができた場合に使用する文明の利器であり、普通に使用すべきものではない」

この手紙は 1916(大正 5)年に書かれたもので、当時、通話料が5分間20銭とハガキに比べかなり高価でした。

札幌電話交換局と電話交換手

1900(明治 33)年3月に札幌、同年4月には小樽に道内初の電話交換局が設置され、業務が開始されました。場所は現在の大通西2丁目、高価な機械を火災などから守るため、石造りが用いられました。

その電話交換局で働いていたのが「電話交換手」でした。発信元と相手先を繋ぐこの仕事は、当初日勤は女性、夜勤・宿直勤務は男性が行っていました。しかし男性は対応が横柄と受け取られたため、電話交換手の採用は「女子にあつて夫なき者」という条件がつき、電話交換手は女性の仕事となっていきました。この「札幌電話交換局」は現在、愛知県犬山市にある野外博物館「明治村」に移築復元され国指定重要文化財となっています。



写真：博物館明治村 旧札幌電話交換局舎